ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	B-3(左岸側)	調査位置				北　緯	36 ° 50 ’ 47.8700 ”
発注機関	栃木県　大田原土木事務所			調査期間	2009-07-13 ～ 2009-07-13	東　経	140 ° 11 ’ 59.2600 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	300.81 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 20.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下具	
総掘進長	5.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	298.91	1.90	1.90		表土 (SF)	暗茶灰			上部10cm間、植物根を含む。 軟質なシルト系土にφ5～40mm程の岩片を混じる。 GL-0.9m以深、礫分を減少し、土は有機質を帯びる。		
2	298.41	0.50	2.40		風化岩 (WR)	灰			風化・変質が岩芯にまで至り、コアは砂質粘土状で採取される。		
3					頁岩 (Sh)	暗灰			岩盤用ビット(ダイヤモンド刃先)での掘進が不可欠である。 コアは細かい層理の発達により角礫状を主とし、層理の少ない部分では長さ3～5cmの短棒状～片状コアで採取される。 亀裂は斜状を主体にやや多く見られるが、開口性のものは無く、密着性亀裂(ヘアークラック)による。 風化・変質は割れ目沿いの褐色化が見られる程度で、岩体の硬度劣化は感じられない。 GL-4m以深、頁岩粒子を優勢する。		
4											
5	295.71	2.70	5.10								

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0 ｜ 10	10 ｜ 20	20 ｜ 30	打撃回数 ／ 貫入量 (cm)	N 値 0 10 20 30 40 50
1.15	1 ／ 15	1	1	3 ／ 35	3
1.50					
2.15	7	15	28 ／ 6	50 ／ 26	>50
2.41					
3.00	50 ／ 9			50 ／ 9	>50
3.09					
4.00	50 ／ 12			50 ／ 12	>50
4.12					
5.00	50			50 ／ 10	>50
5.10					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						07/13